

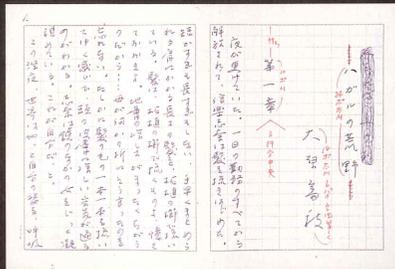
愛犬三郎との暮らし、 受洗と赦し 大原文学の円熟

昭和三十六年(1961)〜

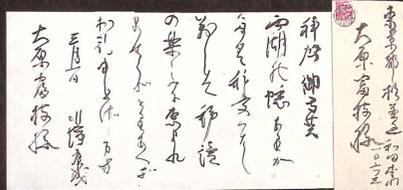
文学活動にひた走り、輝きをみせる創作の数々。
受洗を経てたどりついた思想的到達点。



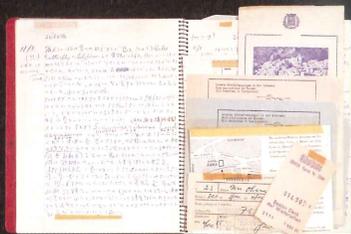
中国作家同盟の招きにより中国訪問(北京人民大会堂にて周恩来首相に謁見:昭和38年)



「ハガルの荒野」原稿(第一章〜第七章)



川端康成よりの手紙(昭和40年3月)



ソビエト作家同盟の招きによりソビエト訪問
(ソビエト旅行日記:昭和40年)



一條神社にて(昭和45年7月)



第9回女流文学賞に輝いた
『於雪 土佐一條家の崩壊』の
副賞「宝石箱」



『於雪 土佐一條家の崩壊』
(中央公論社)
昭和45年1月刊行



女性創造 昭和46年7月号愛犬三郎と



大原の思想的到達点といわれる3作品
左より、『エルザレムの夜』、『アブラハムの幕舎』、『地上を旅する者』



東芝日曜劇場「亜紀子」主演の吉永
小百合と共に(昭和47年10月)

書くことは生きること 大原富枝文学館開館

平成三年(1991)〜

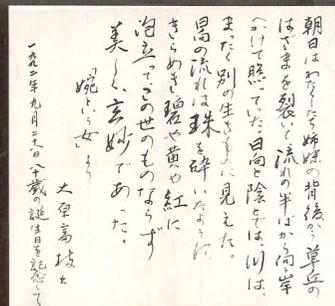
「ふるさと」を想い、「ふるさと」が主題となつてゆく
大原富枝文学館の開館。65年の作家生活の輝き。



大原富枝文学館落成記念式典(平成3年11月)



恩賜賞・藝術院賞受賞者記念撮影 前列右2人目大原



文学碑文:大原富枝直筆。著書「婉という女」から



大原富枝文学館開館の前年に
三岸節子より頂いた油彩「赤い花」
(H580×W500mm:1990年作)



大原富枝文学館建立除幕式



『大原富枝全集』出版記念祝賀会
(高知市城西館にて:平成7年3月)



遺作となった「草を褥に」



吉本隆明によって書かれた碑文
の一部



平成8年8月完成した『大原富枝全集』
1〜8巻刊行(小沢書店)



『大原富枝全集』完成祝賀会で祝辞を述べる
瀬戸内寂聴さん(新宿にて:平成8年9月)

を受賞。同月愛犬三郎と出会う。十二月、「鬼女誕生」を中央公論社より刊行。
昭和四十六年(1971) 五十九歳
五月、今井正監督 岩下志麻主演「婉」という映画化。八月、短編集「狐と棲む」を中央公論社より刊行。十月、「サン・フェリペ」は来た」を新潮社より刊行。
昭和四十七年(1972) 六十歳
十月、短編集「亜紀子」を新潮文庫より刊行。十一月、「海を眺める女」を講談社より刊行。吉永小百合主演「亜紀子」をテレビ放映。
昭和四十八年(1973) 六十二歳
六月、「婉という女」のロシア語訳刊行。
昭和四十九年(1974) 六十二歳
三月、「眠る女」を新潮社より刊行。七月、短編集「トムの火」を東邦出版社より刊行。
昭和五十年(1975) 六十三歳
四月、「建礼門院右京大夫」を講談社より刊行。短編集「キロ」を原作とした「霧の視界」を主演星田里子でテレビ放映。
昭和五十一年(1976) 六十四歳
七月、「三郎物語」を毎日新聞社より刊行。七月二十一日、カトリックに入信。中目黒ミカエル修道院で洗礼を受ける。
昭和五十二年(1977) 六十五歳
十月、「信徒の海」を講談社より刊行。
昭和五十三年(1978) 六十六歳
七月、ギリシャ・イサエラを旅行。
昭和五十四年(1979) 六十七歳
十月、短編集「桜の花」を毎日新聞社より刊行。
昭和五十五年(1980) 六十八歳
三月、「珈琲館影絵」を講談社より刊行。
九月、「エルザレムの夜」を中央公論社より刊行。
昭和五十六年(1981) 六十九歳
十二月、「アブラハムの幕舎」を講談社より刊行。
昭和五十七年(1982) 七十歳
一月、肺炎のため入院。六月、「忍びてゆかな小説 津田治子」を講談社より刊行。
昭和五十八年(1983) 七十一歳
二月、短編集「菓立ち」を毎日新聞社より刊行。三月、「地上を旅する者」を福武書店より刊行。九月、「わたしの和泉式部」を中央公論社より刊行。
昭和五十九年(1984) 七十二歳
五月、「地籟」を文藝春秋社より刊行。この年、「婉という女」のポランド語訳刊行。
昭和六十年(1985) 七十三歳
三月、「ハガルの荒野」を講談社より刊行。四月、「ベンガルの憂愁 岡倉天心とインド女流詩人」を福武書店より刊行。五月、「婉という女」の英語訳をロンドンで刊行。七月、軽井沢千ヶ滝で愛犬三郎失踪。
昭和六十二年(1987) 七十五歳
十月、「山霊」の恋文を福武書店より刊行。昭和六十三年(1988) 七十六歳
六月、欧州旅行へ出発。八月帰国。
平成元年(1989) 七十七歳
六月、イギリス旅行へ。七月、「夢の椅子」を中央公論社より、「彼もまた神の愛でし子か」一洲之内徹の生涯」を講談社より刊行。
平成二年(1990) 七十八歳
五月、フランス旅行へ。七月、随筆集「息にわがする」を朝日新聞社より、短編集「ヌッキオ」を福武書店より刊行。十月、勲三等瑞宝章受章。
平成三年(1991) 七十九歳
十月、郷里の本山町に大原富枝文学館が開館される。
平成四年(1992) 八十歳
五月、「風を聴く木」を中央公論社より刊行。十月、「ふるさとの丘と川」を大原富枝文学館より刊行。「祝出征」を復刻刊行。
平成六年(1994) 八十二歳
一月、今日ある命 小説 歌人三ヶ島霞子の生涯を講談社より刊行。十月、「死にゆく姉を」群像」に発表。
平成七年(1995) 八十三歳
二月、「大原富枝全集」全八巻を小沢書店より刊行開始。
平成十年(1998) 八十六歳
六月、恩賜賞・日本藝術院賞受賞。十二月、日本藝術院会員となる。
平成十二年(1999) 八十七歳
「草を褥に」小説 牧野富太郎を「サライ」十月七日号より連載開始。十月、急性心筋梗塞のため入院。
平成十二年(2000)
一月二十七日、入院先の東京都中野区区立病院にて、心不全のため死去。享年八十七歳。
平成十三年(2001)
四月、「草を褥に」小説 牧野富太郎」を小学館より刊行。

『ふるさとの丘と川』所収の著者年譜を参照